

幼児教育研修（年齢別担任研修3歳児 第2回）

受講者数 82名

日時 令和4年9月13日（火） 15:00～17:00

場所 竹の塚地域学習センター

講師 東京都立大学 人文社会学部 人間社会学科 准教授 田中 浩司 氏

【内容】 ～子どもの発達と保育者の関わりについて～

3歳児クラスの様子を撮影したビデオをもとに、3歳児の発達と保育について学びます。今回のキーワードになる「見守る」は、保育者が子どもにどんな経験をして欲しいかという意図が大切になります。意図を明確にすることにより、保育者が見通しをもって子どもの様子を見取る大切さや子どもが新しい気づきを得る大切さが見えてきました。

**【受講者の感想】***** 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか**

- ・見守るとは、遊びの展開を予想することで見守ることができる。いつまで見守るか、子どもがどんな気持ちでそこにいるかを考えることが大切である。その日の保育の意図するものをしっかりもち、展開される子どもたちの遊びの中で、子どもの気持ちを汲み取っていくようにしたい。
- ・子どもの行動ひとつで良い悪いを判断するのではなく、行動の裏にある子どもの思いをしっかり受け止める。また、すぐに声をかけるのではなく、様子を見守り、子どもの心が動く瞬間を待つことも大切である。その場の状況を見て判断してしまうことが多かったため、しっかり前後の状況を把握し、保育者の関わりは必要か、子どもたちはどういう思いなのか考えながら援助していきたい。
- ・保育者の意図がなければ、「見守る」にならないということがとても勉強になった。今まで見守っていると思っていたが、もしかしたら見ていただけなのかもと自分自身を振り返ることができた。しっかりと子どもの様子を見て、意図をもって見守っていこうと思った。
- ・年長児の活動を見て、憧れの気持ちが育っていく時期。興味をもち失敗することもあるかもしれないが、そこから次の興味に繋がることも考えられる。そのことを踏まえて関わっていく。子どもたちが興味をもてるような環境設定や職員との連携を心掛けていきたい。